

どうしよう？ こうしよう！ わがまちの 「子ども・子育て会議」 ！

1. 法的根拠

「子ども・子育て支援法」【第72条～77条】

子ども・子育て会議の設置、組織、権限及び運営、市町村等の合議制機関の設置努力義務

新制度上、国の有識者、地方公共団体、事業主代表・労働者代表、子育て当事者、子育て支援当事者等（子ども・子育て支援に関する事業に従事する者）が、子育て支援の政策プロセス等に参画・関与することができる仕組みとして「子ども・子育て会議」を設置することになり、併せて市町村等の合議制機関の「設置努力義務」が位置づけられた。

国、都道府県、市町村それぞれに設置予定だが、都道府県、市町村は設置努力義務となっている。

2. 地方版（市町村）子ども・子育て会議の意義

- 当事者の参画
- 隠れたニーズの把握、拾い上げ
- 地域主権、市民参画のモデル
- 関係当事者、事業者の利害調整
- 新制度への円滑な移行



3. 子ども・子育て会議の役割（案）

- (1) 当事者のニーズ把握、国・都道府県・市町村等の状況把握
- (2) ニーズ調査を踏まえた基本方針、事業計画、成果目標の検討
- (3) 教育・保育施設等の給付の内容検討、水準についての意見調整
- (4) 事業計画等の進捗状況等の調査審議、点検・評価、効果測定、見直し（PDCAサイクル）
- (5) 事業の監査、費用の使途実績の把握
- (6) 国、都道府県、市町村子ども・子育て会議間の連携
- (7) その他必要な事項



調査審議権限に加え、当事者参画の機関として、行政からの諮問がなくても自らの判断で必要に応じ調査審議し、提言できる機能等も検討してはどうか？

子ども・家庭支援に必ず使われるように、費用の使途実績は是非把握したい！



重要な会議だからこそ、
条例により子ども・子育て支援法77条の合議体に位置づける ！

4. 子ども・子育て会議の構成員

会議の構成員は、公平性、当事者性を確保するため、多様な関係者の意見を踏まえて選定する。

- (1) 子育て当事者（子どもの保護者）
- (2) 有識者・学識経験者、事業主代表・労働者代表
- (3) 子ども・子育て支援関係者・事業者（保育・教育両分野から）など



①子育て当事者どうやって決める？

- ・公募？（作文、面接。。。）
- ・有識者、子ども・子育て支援関係者・事業者、ネットワークからの推薦
- ・子どもの年齢バランス ・利用している支援サービスの内容

②子育て当事者を迎え入れるために

- ・母親だけでなく父親も
- ・保育を用意する
- ・会議の時間帯への配慮

③座長は誰？ 有識者が多い



（複数の自治体で座長を務める有識者の声）

自治体によって進め方がだいぶ異なる。進行案があって、それから外せない会議は活気がなく、委員からも積極的で新しい視点の意見が出て来ない。一方、やる気のある開かれた自治体の会議は、常に委員の意見を踏まえて柔軟な対応が可能であり、参加委員のモチベーションが高い。結果として有意義なニーズ調査が可能となり、新しい事業等が生み出される。

5. 設置時期、既存の協議会の活用、透明性の確保

(1) 設置時期 平成25年4月から可能



なるべく早く設置しよう！

(2) 既存の協議会の活用



次世代育成支援対策地域協議会等が発展的に「子ども・子育て会議」に位置づけられるとしても、新たな合議体としての構成員の追加・見直し等が求められる。

（参考）厚生労働省が次世代育成支援対策推進法に基づく地域協議会等の設置状況について調査した結果（平成23年1月1日現在）、市町村による設置状況は、設置済みが1,327市町村区（75.8%）であり、法21条に基づく地域協議会はそのうち773市町村区（58.3%）、既存の審議会などを活用が554市町村区（41.7%）となっている。24%程度の自治体は設置していない。

(3) 情報公開 透明性の確保

公開での実施、議事録の公開、傍聴者席の確保



6. 子育て当事者、市民の声を反映させる工夫

(1) ニーズ調査

国から指針は出るが、これまでの次世代前期・後期行動計画策定の際に実施したニーズ調査を踏まえ経年変化をみるもの、新たに付け加えるもの等を、是非「子ども・子育て会議」のメンバーで検討してほしい。



ニーズ調査は、表に出てこない隠れたニーズをどれだけ把握できるかがカギ！
一時預かり保育事業、病児・病後児保育等、本当にニーズがないといえるのか？
誰かの都合ではないのか？

子どもたちにも、一般の市民の方々にも意見を聞こう。

(2) 現場を見に行こう！

子ども・子育て会議のメンバーで、現場を見に行ってみる。

(3) 参加型ワークショップをやってみよう！

- ・数人の当事者の親だけでなく、多くの多様な保護者から意見を聞こう！
- ・当事者のニーズは、当事者からしか学べない。

につぼん子育て応援団は、平成25年度を、「子ども・子育て会議元年」として、4月より全国の市町村の「子ども・子育て会議」の動きをウォッチしていきます。

国の動向、全国各地の動きをお知らせするメール配信を希望する方は、以下にご記入ください。

につぼん子育て応援団 「わがまち子ども・子育て会議 ML」参加申し込み

氏名： _____

ご所属： _____

メールアドレス： _____

